

## 『輝く中堅中小企業をめざして』

去る3月2日に科学技術センターにおいて、恒例のATAC講演会を開催しました。

今回は企業参加者38人を前に3人のATACメンバーが講師をつとめました。



講演1で、講師の三原恵二郎は「ATACの中小企業支援の真髄」と題して、ATACの成り立ちと今までに解決した中小企業支援の9つの事例を示しながら、その真髄を語りました。

設備に荷札を吊り下げて故障の都度内容を記入して、故障はどこが多いかを一目で分かるようにして機械稼働率UPに貢献した話、パート従業員の活性化を支援して潜在力を引き出すことに成功した例、世代交代する企業の社員教育の話、5S活動を通して全員参加意識を向上させた話などの実績を紹介しました。三原によるとATACの現場指導は、副作用がなく確実に企業に体力をつける『漢方薬的な企業活性化支援』だと云います。

ATACの活動は、工場現場の問題解決の支援に留まらず、間伐材活用の技術研究、快適な温湿度を保つ寝袋の開発支援と云った固有技術の開発援助から、大学アントレ教育への協力参加、阪大マッチングフェアへの出展とその来訪企業の支援、又、公的助成機関とのコラボ活動…といったこともやっており、これからも多岐にわたる専門家集団としての特徴を生かして皆様のお役にたつよう頑張りますと締めくくりました。

講演2の話はISOの話です。中小企業の皆さんの中には「ISOは取得してはいるが、毎回の審査の手間や費用に不満」という方や、「儲からないので返上しよう」と考えておられる方が多いと云われています。講師の久保田達之はそんな方々へ「ISOで儲かる会社に変身する」と題してISOの活用方法、そして新しくISOを取りたいと思っておられる方のためのアドバイスを話しました。ATACが手がけた最近の「儲かるISO」を実践した会社の例でも、若い社長の求心力が向上、職場が活性化して、営業部門～

設計部門で発生していたクレームが激減して何千万円もの増益があり、競争力アップと企業のイメージアップにも繋がったといえます。

企業にはそれぞれ特徴がありますから、ATACでは先ず企業を見せて頂き、企業の特徴を十分把握した上で、その会社にあった独自のISO構築を指導しております。現状を見せて頂き診断するのは無料です、ご興味のある方は是非ATACの私に声をかけて下さい…と久保田は熱っぽく語りました。

最後の講演3では、長田徹が「工場活性化のための幹部社員教育」について話しました。

今、中小企業で一番の問題は現場力の低下であると彼は指摘します。物づくりは人づくりであり、人づくりこそが「問題解決力」「仕事のやる気」をおこさせ、現場力を高めて、会社の経営に活かせることが出来ると云います。『10人～20人位の規模の会社であれば社長一人で人心をつかめるが、それ以上は無理なのでその所をよく考えて欲しい』と長田は訴えます。そして、管理監督者の弱体の背景、現場力を高めるためにどの様な現場にしたいかを実例を上げて話しましたが、聴講者の皆さんも非常に興味深げに聞き入っておられました。

具体例として化成品会社の不良率の低減、部品加工会社の生産効率の向上・原価低減、食品加工会社の大量生産から多品種少ロット生産への切り替えを詳しく説明しました。特に聴講者が熱心にメモをとられていたのが印象に残る話でした。



講演の後の相談会（無料）には沢山の企業の方が来られ、予定していた時間をはるかに超えるご相談をお受けしました。また、恒例の懇親会には参加者の40%を上回る方々にご参加頂き、企業間相互の親睦を図る楽しい時間を過ごして頂きました。参加頂きました企業の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

(小山、池田(雅)、明石)